

第1回 あさご未来会議

ジェンダーギャップ・ジェネレーションギャップ 朝来市の現状と課題

—朝来市第4次男女共同参画プラン～ウィズプラン～から—

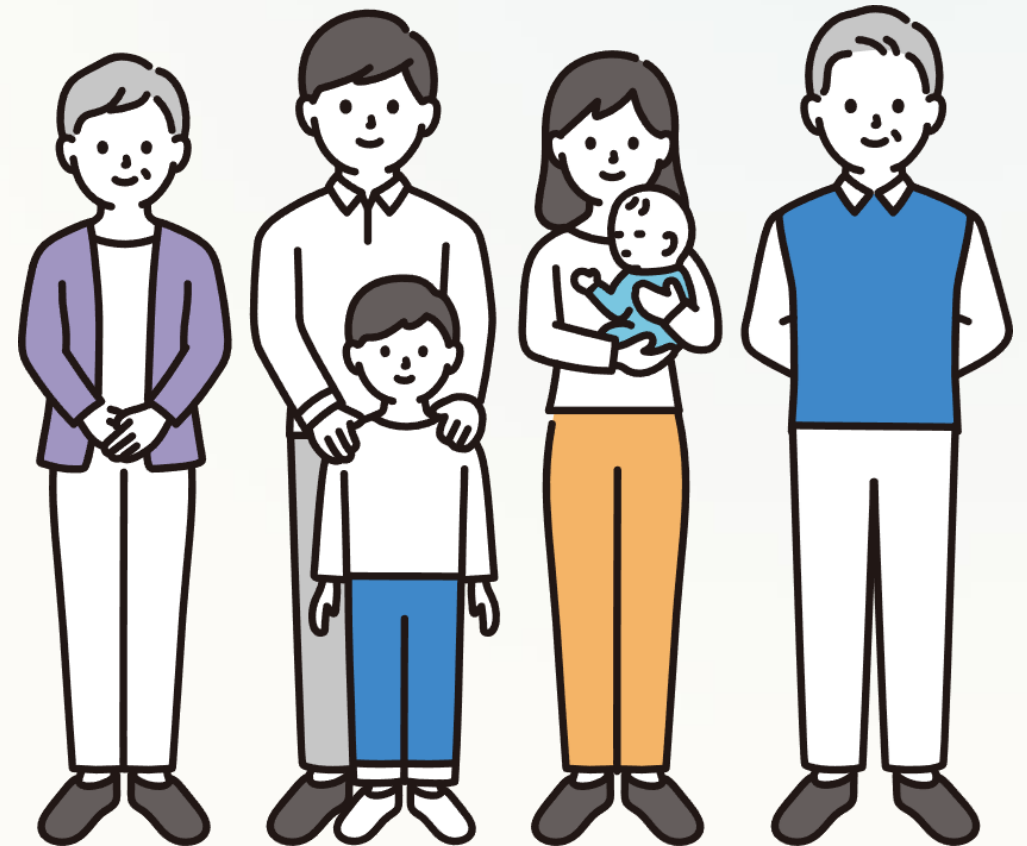
朝来市役所 人権推進課

朝来市第4次男女共同参画プラン～ウィズ（With）プラン～

■基本理念

「『男だから』『女だから』という決めつけをなくし、誰もがお互いを認め合い、自らの意思によって自分らしく生活できるまちづくりをめざす」

「共に」 = ウィズ（With）



| 現状と課題～3つの場面から～



家 庭



地 域



仕 事

※今回の資料は、第4次男女共同参画プラン策定時の市民アンケート結果を中心に説明するものです。



家庭：意識と行動のギャップ

「男は仕事、女は家庭」に反対・どちらかといえば反対する市民

約68 %

家事・育児・介護の時間

平日、休日ともに女性が圧倒的に多い

3～4時間以上（※男女それぞれの割合）

平日 女性：56.3% 男性：12.5% ／ 休日 女性：63.3% 男性：21.9%

- 【女性の意見】 家庭の負担が集中し自分の時間が持ちにくい。
- 【男性の意見】 両立したいが仕事との調整が現実的に難しい。
- 【若者の意見】 若い世代ほど反対割合が高い。





地域：地域活動においての意識

社会通念やしきたりにおいて、男性が優遇されていると感じる市民

約 70 %

- 【女性の意見】 炊き出しや受付など実務の役割は多いが、
ルールを決める「意思決定の場」への参加が少ない。
- 【男性の意見】 「役員は男性がやるもの」という慣習が、
特定の一部男性に重い負担となっている。



| 仕事：職場と家庭～ワークライフバランス～

出産後に働き続けるため「周囲の理解と意識改革」と感じる市民

45 %

■ 制度があっても「使いにくい」現状

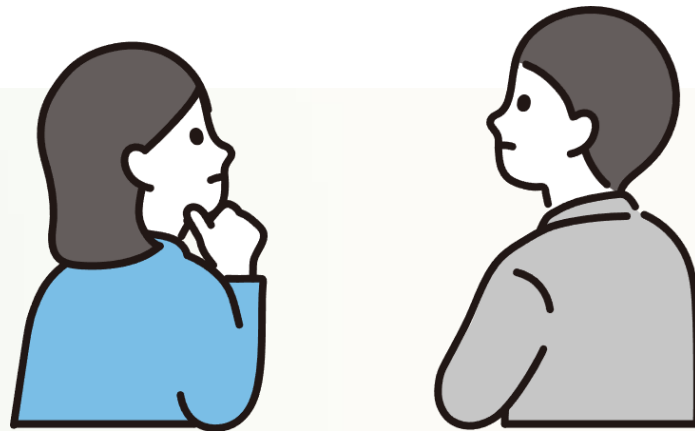
- ・「制度はあっても、自分が休んだら代替りの人がいない」
- ・「取りにくい雰囲気がある」



仕事：職場と家庭～事業所の声～

■ 人手不足と費用の確保に悩む現場

- ・市内の事業所の多くは、環境改善に前向き
- ・「代替要員確保」の助成金の認知度は約16%にとどまる
- ・ワークライフバランスの必要性は感じる一方で、人員不足の中でどのようにコストや人員の体制を維持するか



| 現状と課題～3つの場面から～



家 庭

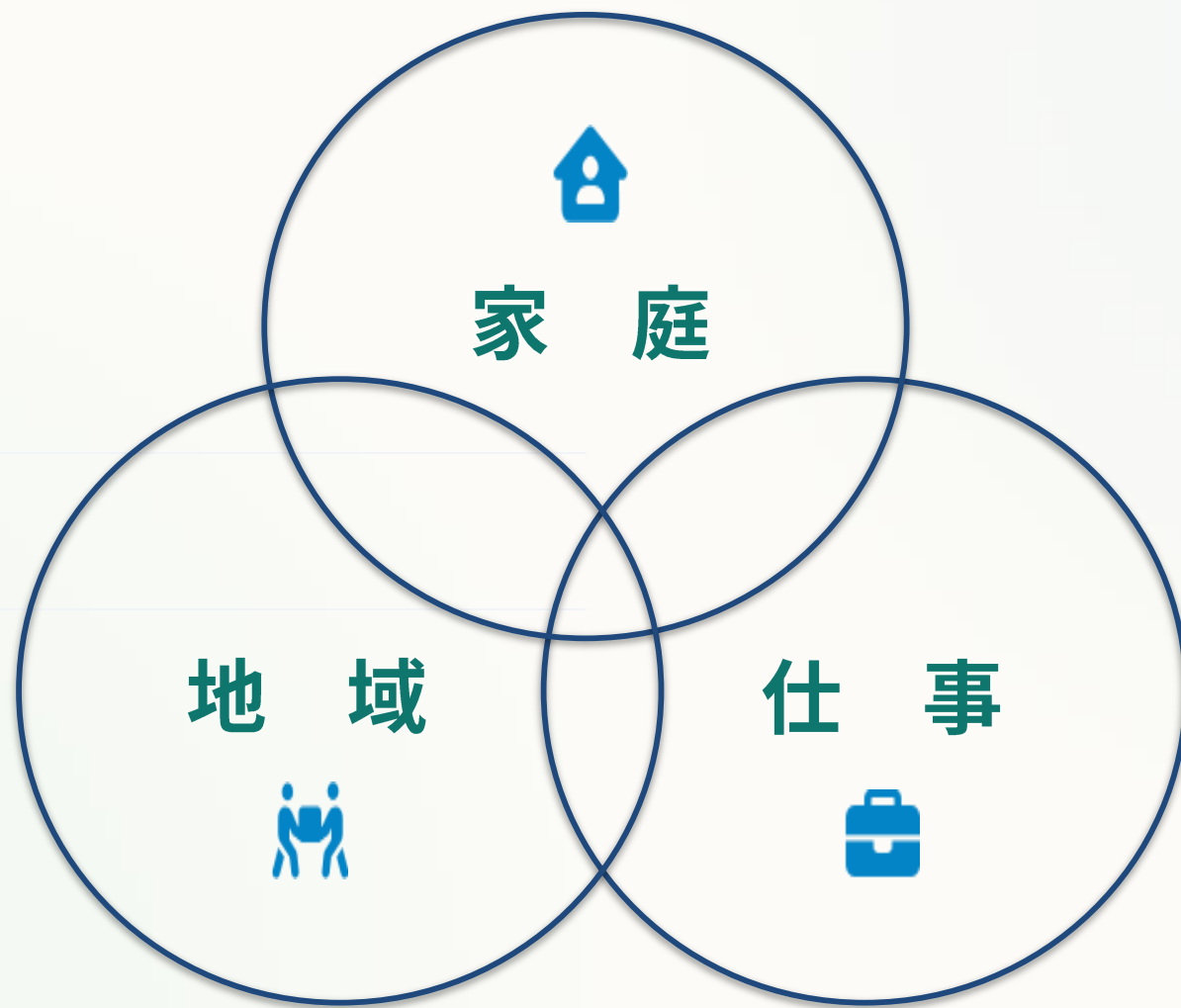


地 域



仕 事

🔄 現状と課題～3つの場面から～



「どこか一つ」ではなく、3つのバランスを複合的に見直すことが重要

ジェンダーギャップ・ジェネレーションギャップ解消に向けて

「男女共同参画」や「ジェンダーギャップの解消」と聞くと、どこか遠い話や、人権の理想論のように聞こえるかもしれません。

しかし、いま私たちが直面している朝来市の深刻な課題、人口減少、若者の流出、そして地域の担い手不足を根本から解決するための『具体的な鍵』こそが、ジェンダーそしてジェネレーションギャップの解消ではないでしょうか。

「見えない意識の固定化」を打ち破り、どうすれば男性も女性も活躍することでき、一人ひとりが自分の意志で、自分の人生を選べる「選択肢」を広げていけるのか。

「あさごみらい会議」で、一緒(With)に対話していきましょう。

